



携帯発電機



取扱説明書 EF6000TE

ご使用前に、かならず取扱説明書・本体ラベルをお読みになり、内容を理解してからお使いください。

7C6-F8199-J0

おねがい

ヤマハ商品をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

本書には、商品の安全性に関する情報と商品の正しい取り扱い方法および簡単な点検・調整について説明してあります。

万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障の原因となります。

あなた自身の安全と環境や住民の方との調和のために、また商品の性能を十分に発揮させるために、商品の取り扱いを充分ご存じの方も、この商品独自の装備・取り扱いがありますので、ご使用前に必ず本書を最後までお読みください。なおご使用時には本書を携帯し、安全に商品をご使用くださいますようお願い申し上げます。

*本書では、正しい取り扱いおよび点検・調整に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。



安全に係る注意情報を意味しています。



取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。



取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。



正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

- 仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- 保証書はよくお読みいただき、裏面のお買いあげ日、販売店の記入をご確認ください。
- 本書は大切に保管し、わからないことや不具合が生じたときにお読みください。なお本機の転売や譲渡などをされる場合は必ず添付してください。

目次

おねがい.....表紙裏 (表2)	
本体識別番号.....P1	
●本体識別番号.....P1	
お客様ご相談窓口のご案内.....P2	
安全にお使いいただくために	
お守りください.....P3	
●△警告.....P3	
●△注意.....P4	
●環境への配慮.....P4	
重要ラベル.....P5	
●△警告ラベル.....P5	
●△注意ラベル.....P5	
●その他ラベル.....P6	
各部の名称.....P7	
各部の取り扱い.....P9	
●エンジンスイッチ.....P9	
●オイル警告装置.....P9	
●オイル警告ランプ (赤色).....P10	
●交流スイッチ.....P10	
●エコノミーアイドルスイッチ.....P11	
●電圧計 (Vメータ).....P11	
●単相・三相切替スイッチ.....P12	
●燃料コック.....P12	
●交流コンセント.....P13	
●電圧調整ノブ.....P13	
●リコイルスタータハンドル.....P14	
●アース端子.....P14	
●携帯工具.....P15	
はじめてお使いになる前に.....P16	
●燃料 (自動車用レギュラー ガソリン) の給油.....P16	
●エンジンオイルの給油.....P17	
正しい運転操作.....P19	
●エンジンの始動 (電動スタート).....P19	
●エンジンの始動 (手動スタート).....P20	
●エンジンの停止.....P22	
●単相・三相切替スイッチの 使い方.....P23	
●交流電源の取り出しかた.....P24	
●交流電源の使用可能範囲.....P26	
点検.....P27	
●始業点検.....P27	
●定期点検.....P27	
始業点検.....P28	
●燃料 (自動車用レギュラー ガソリン) の点検.....P28	
●エンジンオイルの点検.....P29	
●その他の点検.....P29	
定期点検表.....P30	
定期運転・定期交換.....P31	
●定期運転.....P31	
●定期交換.....P31	
定期点検・整備ご相談窓口のご案内.....P32	
点検・調整.....P33	
●エンジンオイルの交換.....P33	
●スパークプラグの点検と清掃.....P35	
●エアクリーナエレメントの清掃.....P37	
●マフラワイヤネットの清掃.....P39	
●燃料タンクストレーナの清掃.....P40	
●フューエルストレーナの清掃.....P41	
●バッテリー液の点検.....P42	
故障診断.....P43	
●エンジンが始動しない.....P43	
●電気が出ない.....P43	
運搬.....P44	
保管・格納.....P46	
●保管.....P46	
●格納.....P49	
仕様諸元.....P50	
バッテリー・バッテリートレイの 取り付け要領.....P51	
交流電源回路図.....P52	
索引.....巻末	

お客様ご相談窓口のご案内

お買いあげいただきました商品についてのお問い合わせ・ご相談は下記の「カスタマーコミュニケーションセンター」へお願いいたします。

ヤマハ発動機株式会社
カスタマー コミュニケーション センター

〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500

 **0120-090-819**

受付時間 月曜～金曜

(祝日、弊社所定の休日等を除く)

9:00～12:00 13:00～17:00

お問い合わせの際、お客様へ確実に迅速に対応させていただくため、あらかじめ下記の事項をご確認の上、ご相談ください。

- 商品名
- 本体識別番号
- ご購入年月日
- ご購入先

ヤマハ発電機をよりご理解いただくためにホームページもご参照ください。

ヤマハインターネットホームページ

<https://www.yamaha-motor.co.jp/generator/>

安全にお使いいただくためにお守りください

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書とその付属書類、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

警告 (行為を禁止する警告文)

- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
- 排気ガス中毒のおそれあり、排気ガスがこもる場所で使用しないでください。排気ガスは一酸化炭素など有害成分を含んでいますので、室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク、マンホールなど換気の悪い場所や建物や遮へい物で風通しの悪い場所などの排気ガスがこもる場所で使用しないでください。
- 商品の周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しないでください。
- 商品の上にものを乗せて使用しないでください。
- 火災のおそれあり、この発電機は車載用ではありません。車両に積載したまま使用しないでください。
- ヤケドや火災のおそれあり、使用中や使用直後はマフラ部が熱いので、マフラやマフラ周辺のプロテクタに手足を直接触れたり、カバーを掛けたりしないでください。
- 火災のおそれあり、給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 火災のおそれあり、商品の周囲や下に危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすいもの（枯れ草、わらくず、紙くず、木くずなどの可燃物）を置かないでください。
- 感電、火災のおそれあり、電力会社の電気配線に接続しないでください。接続しますと電気器具や商品の故障、または火災や電気工事関係者の感電事故の原因となります。
- 感電のおそれあり、ぬれた手で商品进行操作したり、雨や雪など水がかかる場所では使用しないでください。
- 感電のおそれあり、コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まないでください。
- 感電やけがのおそれあり、運転中は点検整備を行わないでください。
- 感電やけがのおそれあり、改造したり、部品を取り外したまま使用しないでください。

警告 (行為を指示する警告文)

- 商品を他人に貸すときは、必ず取扱説明書もいっしょに貸してください。
- 排気ガス中毒や火災のおそれあり、本機を建物や設備から1メートル以上離して使用してください。
- 火災のおそれあり、燃料の給油はエンジンを停止し、換気の良い場所で行ってください。

燃料のガソリンは、高い引火性と爆発性がありますので、取り扱いは充分注意してください。特にエンジン始動前には、ガソリンの漏れがないことを確認してください。

-
- 火災のおそれあり、給油時にこぼれた燃料は布きれなどできれいにふき取ってください。
 - 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石鹼と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。
 - 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合には、直ちに医師の診察を受けてください。

⚠ 注意 (行為を禁止する注意文)

- けがのおそれあり、傾斜させて使用しないでください。
- けがのおそれあり、運転中は移動させないでください。
- けがのおそれあり、商品の回転部に棒や針金を入れないでください。
- 感電のおそれあり、運転中はスパークプラグにさわらないでください。
- 感電、けがのおそれあり、子供に使用させないでください。
- 感電、けがのおそれあり、エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。
- 火災のおそれあり、定格出力を超えた過負荷で使用しないでください。
- 火災のおそれあり、エンジン部、マフラ部が十分に冷えるまで、発電機にカバーを掛けしないでください。

⚠ 注意 (行為を指示する注意文)

- 火災のおそれあり、燃料の種類と規定容量を守って使用してください。
- 商品を自動車などで運搬する場合には、燃料を抜いて倒れないようにしっかり固定してください。
- 毎回使用前に行う始業点検や定期点検は必ず実施してください。
- 使用中に音、臭気、振動などの異状を感じたら、直ちにエンジンを停止してヤマハ発電機販売店またはサービス店の点検を受けてください。

環境への配慮

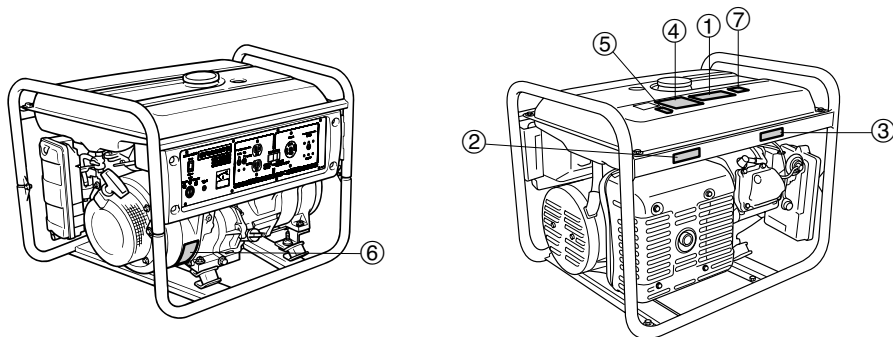
将来、廃棄される場合および廃油などの廃棄処理をされるときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ発電機販売店またはサービス店にご相談ください。

重要ラベル

商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し、正しくご使用ください。






要 点

ラベルは常に手入れを行い、破れたりはがれたりした場合はヤマハ発電機販売店またはサービス店にご相談して、直ちに新しいものと交換してください。




▲ 警告 ラベル

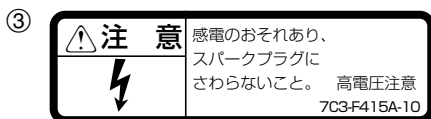
①

▲ 警告	
 火気 厳禁	火災や爆発のおそれあり ・給油中はエンジン停止のこと。 ・ガソリン給油中に火気を近づけないこと。 ・こぼれたガソリンは完全に拭き取ること。 ・燃料は赤レベル(規定量)以上入れないこと。 ・可燃物のそばで使用しないこと。 ・建物・設備に排気を向けないこと。
	排気ガス中毒のおそれあり ・屋内など換気の悪い場所で使用しないこと。 ・人・建物・設備に排気を向けないこと。
	感電や火災のおそれあり ・電力会社からの電気配線に接続しないこと。
	感電のおそれあり ・雨や雪の中で使用しないこと。 ・コンセントに濡れた手でさわらないこと。
	▲ 注意 ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで安全にお使いください。 7C3F4162-00

②

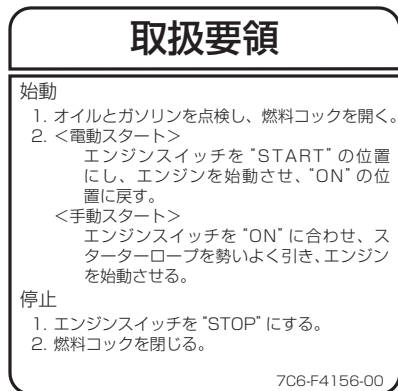
 警告	やけどのおそれあり、マフラーにさわらないこと。 高温注意 7C3-F8176-00
---	--

⚠ 注意 ラベル

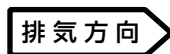


その他ラベル

④取扱要領



⑤排気方向



7C3-F415E-00

⑥識別番号ラベル (P1参照)

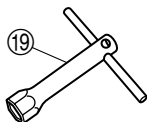
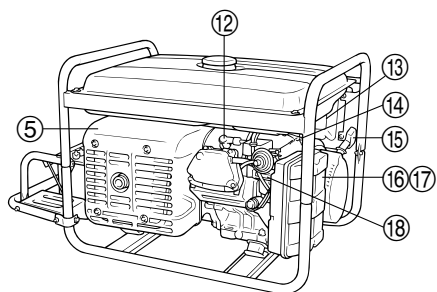
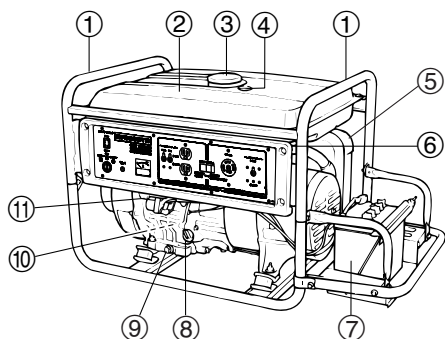
⑦「LEMA」ラベル

(「排出ガス」自主規制適合マーク)

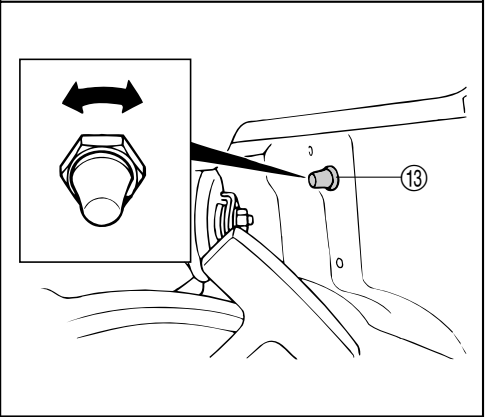
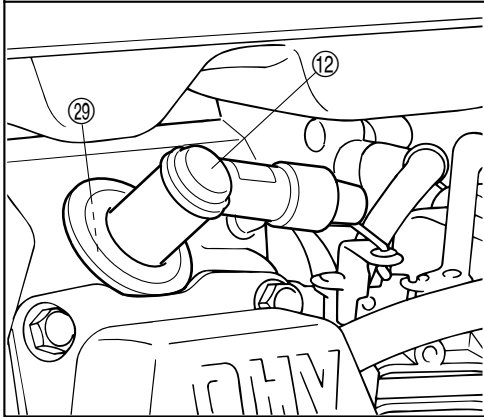
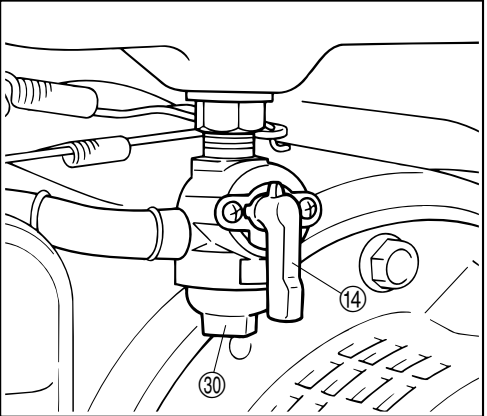
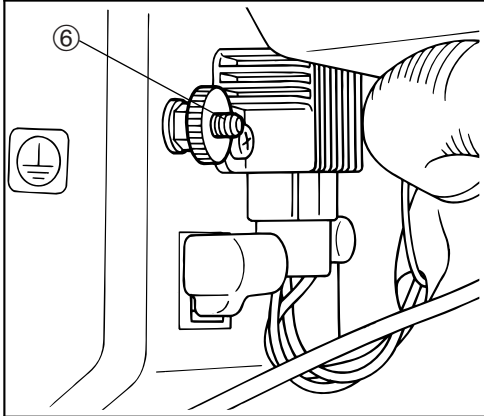
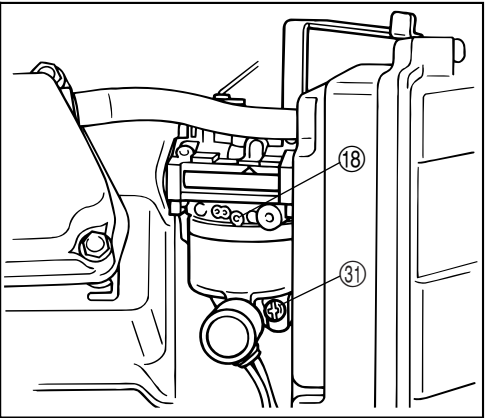
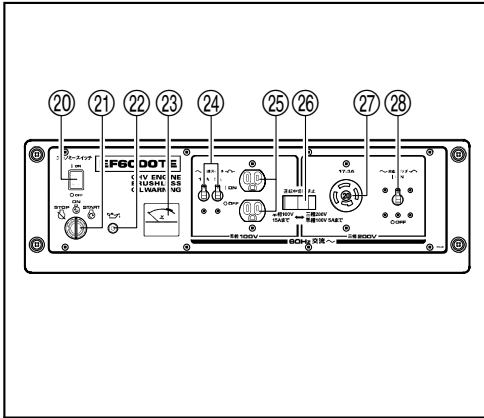


7CA-F111F-00

各部の名称



- ①ハンドル
- ②燃料タンク
- ③燃料タンクキャップ
- ④燃料残量計
- ⑤マフラ
- ⑥アース端子
- ⑦バッテリー
- ⑧オイルプラグ (オイル注入口)
- ⑨エンジンオイルドレンボルト
- ⑩オイル警告装置 (エンジン内)
- ⑪セルモータ
- ⑫スパークプラグキャップ
- ⑬電圧調整ノブ
- ⑭燃料コック
- ⑮リコイルスタータハンドル
- ⑯エアクリーナ
- ⑰エアクリーナエレメント
(エアクリーナ内)
- ⑱キャブレタ
- ⑲スパークプラグレンチ
- ⑳エコノミースイッチ
- ㉑エンジンスイッチ
- ㉒オイル警告ランプ
- ㉓電圧計 (Vメータ)
- ㉔交流スイッチ (交流単相100V)
- ㉕交流コンセント (交流単相100V)
- ㉖単相・三相切替スイッチ
- ㉗交流コンセント (交流三相200V)
- ㉘交流スイッチ (交流三相200V)
- ㉙スパークプラグ
- ㉚ストレナカップ
- ㉛ドレンスクリュー



各部の取り扱い

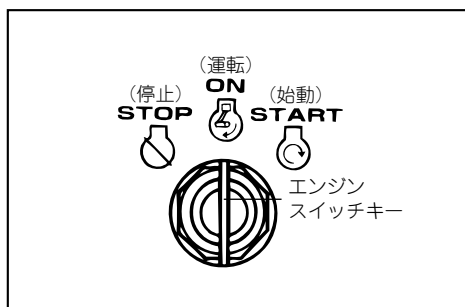
● エンジンスイッチ

点火系統を制御し、エンジンの運転、停止を行います。

STOP (停止) — エンジン停止および保管時の位置です。

ON (運転) — エンジン運転時の位置です。

START (始動) — セルモータが回転し、エンジンが始動します。



▲注意

- セルモータを連続して5秒以上回転させないでください。消費電力が多いためバッテリー上がりの原因となります。
- 発電機を使用しないときは、エンジンスイッチをSTOP (停止) の位置にして、キーを抜いてください。

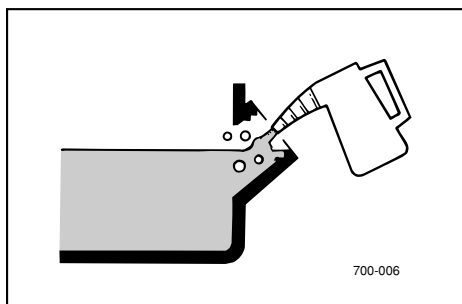
要 点

START (始動) の位置でエンジンがかかったら、エンジンスイッチから手を放してください。キーは自動的にON (運転) の位置に戻ります。

● オイル警告装置

エンジンオイル量が少なくなって潤滑不足になる前に、自動的にエンジンを停止させます。

エンジンオイル量が少ない状態でエンジンが停止したときは、リコイルスタータハンドルを引いても、エンジンスイッチをSTART (始動) の位置にしても、エンジンは始動しません。エンジンオイル量を確認し、エンジンオイルを規定量 (注入口の口元) まで給油します。



▲注意

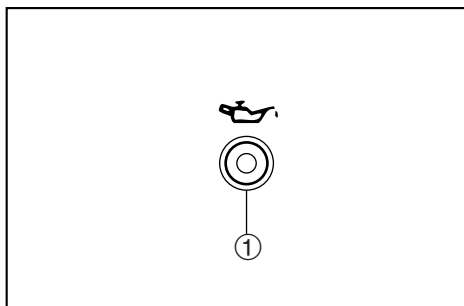
エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。
エンジン不調になるおそれがあります。

要 点

- エンジンオイルの給油のしかたは「エンジンオイルの給油」(P17) を参照してください。
- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態にして行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

● オイル警告ランプ (赤色)

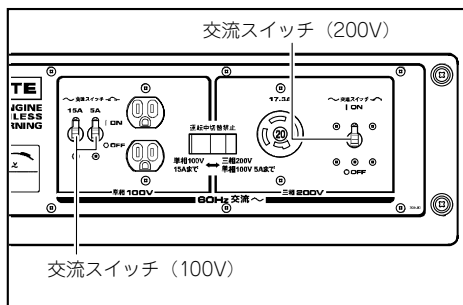
オイル警告ランプ①は運転中にエンジンオイル量が規定以下になると点灯し、自動的にエンジンを停止させます。また、始動時にエンジンオイル量が規定以下になっているとオイル警告ランプ (赤色) ①が点灯し、エンジンは始動しません。



● 交流スイッチ

ON (入) — 交流電源が取り出せます。

OFF (切) — 交流電源が取り出せません。



▲ 注意

電気機器を使用中に交流スイッチがOFF (切) になる場合は、接続されている負荷を発電機の指定定格出力以内に減らしてください。それでもOFF (切) になる場合はヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談してください。

要 点

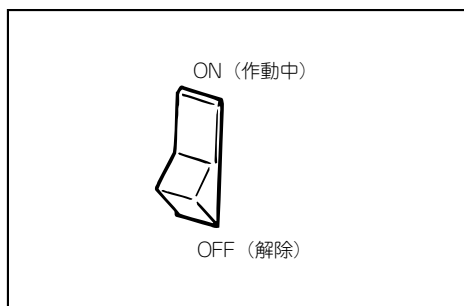
電気機器を使用中に定格以上の電流が流れると自動的に交流スイッチはOFF (切) になります。再度使用する場合は交流スイッチをON (入) にしてください。

各部の取り扱い（つづき）

● エコノミーアイドルスイッチ

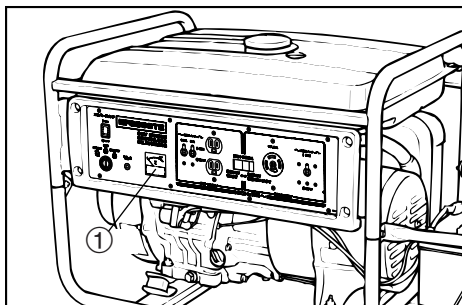
ON — エコノミーアイドル装置が作動（作動中）します。電気機器を運転すると、自動的にエンジンは定格回転となり、運転しないときは自動的に低速回転になります。

OFF — エコノミーアイドル装置が解除されます。電気機器の使用の有無にかかわらずエンジン回転は定格回転で運転します。



● 電圧計（Vメータ）

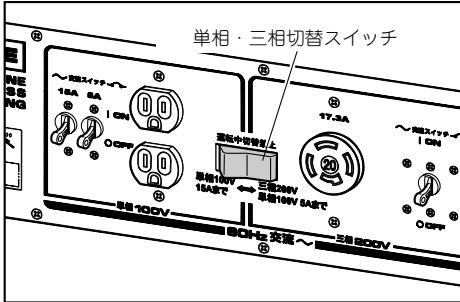
電圧計（Vメータ）①はエンジン運転中に発生する交流（AC）三相200Vの電圧を針の振れで示します。



● 単相・三相切替スイッチ

単相 —— 交流 (AC) 単相100V15A
を取り出すことができます。

三相/単相 — 交流 (AC) 三相200Vと
単相100V5Aまで取り出
すことができます。

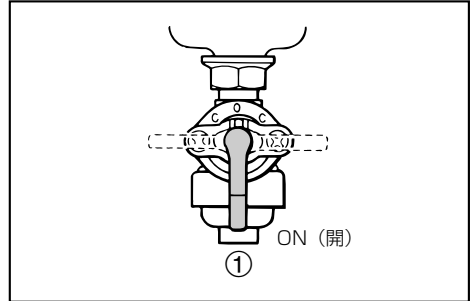


● 燃料コック

燃料コックは燃料の流れを制御します。

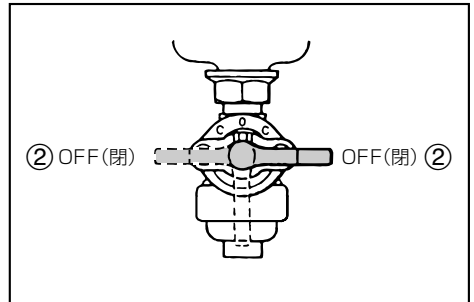
①ON (開) — 燃料は流れます。

始動および運転時のレバー
の位置です。



②OFF (閉) — 燃料は流れません。

停止および保管時のレバー
の位置です。

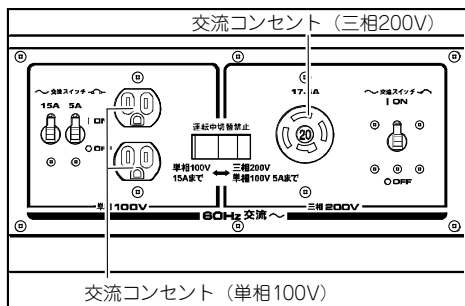


各部の取り扱い（つづき）

● 交流コンセント

交流（AC）の単相100V／三相200Vを取り出すことができます。

取り出し方は、「正しい運転操作」の「●単相・三相切替スイッチの使い方」「●交流電源の取り出し方」を参照してください。



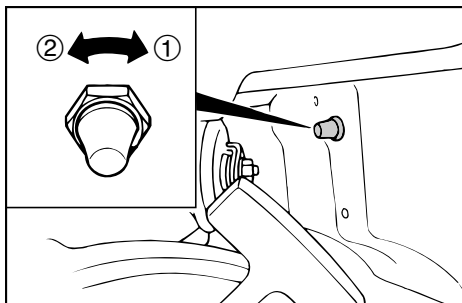
● 電圧調整ノブ

交流（AC）三相用200Vの出力電圧を160Vから220Vの範囲で変化させることができます。

要 点

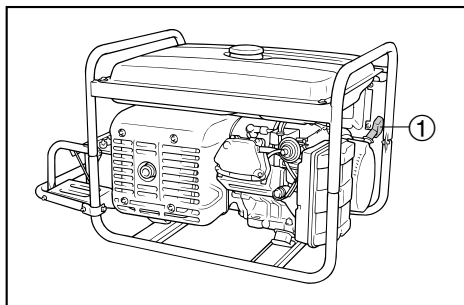
延長コードの使用などにより電圧降下が見られる場合は電圧の調節をしてください。

- ①出力電圧が上昇します。
- ②出力電圧が下降します。



- **リコイルスタータハンドル**

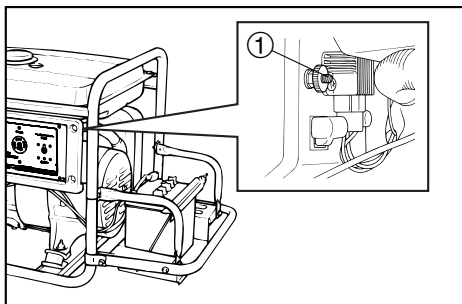
リコイルスタータハンドル①はエンジンを始動させるときに使用します。



- **アース端子**

感電防止のアース線を取り付ける端子です。アース端子①から大地にアースしてください。

使用器具をアースしたときは、発電機も必ずアースしてください。



各部の取り扱い（つづき）

- 携帯工具

発電機に携帯工具が同梱されています。点検・調整の際にご使用ください。

はじめてお使いになる前に

- 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の給油

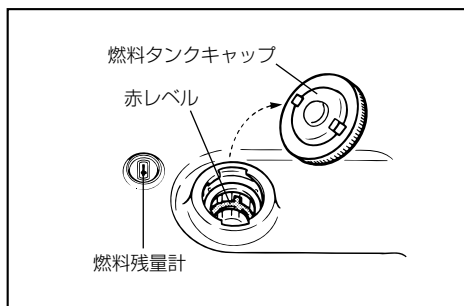
燃料タンクキャップを外し、燃料（自動車用レギュラーガソリン）を赤レベルまで給油します。

燃料タンク容量

21.5L（赤レベルまで）

使用燃料

自動車用レギュラーガソリン



▲警告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発力があるので、次の事項を必ず守ってください。

- 給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。
- 給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意して行ってください。

- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医者 の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹼と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料タンクキャップは確実に締めてください。

▲注意

- 燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。またこぼれたときは、直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。
- 燃料は規定量以上（ストレーナの赤レベル以上）給油しないでください。

要 点

- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早めに補給してください。

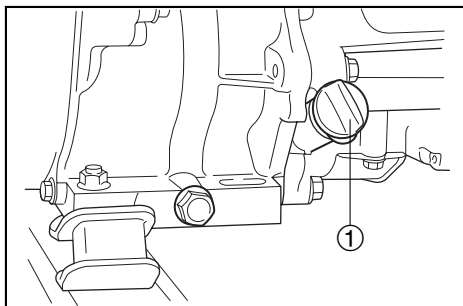
はじめてお使いになる前に（つづき）

● エンジンオイルの給油

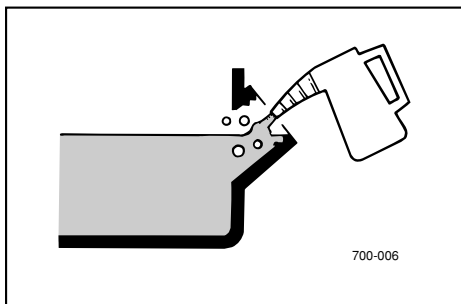
▲注意

- 工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていませんので、購入後、最初に使用するときはエンジンオイルを規定量給油してください。
- エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジン不調になるおそれがあります。

1. オイルプラグ①を取り外します。



2. エンジンオイルを規定量（注入口の口元まで）給油します。



推奨オイル：

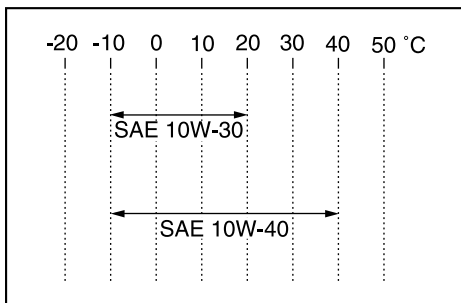
ヤマルーブスタンダードプラスまたは
4ストロークガソリンエンジンオイル
SAE 10W-30もしくは10W-40

グレード：

API分類SE級以上

エンジンオイル規定量：

1.1L



要 点

- エンジンオイルの給油のしかたは「エンジンオイルの交換」(P33)も参照してください。
 - エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態にして行ってください。
 - こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。
-

3. オイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。

正しい運転操作

- エンジンの始動（エレクトリック始動の場合）

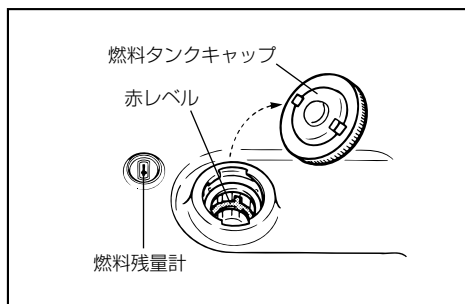
▲警告

換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しないでください。

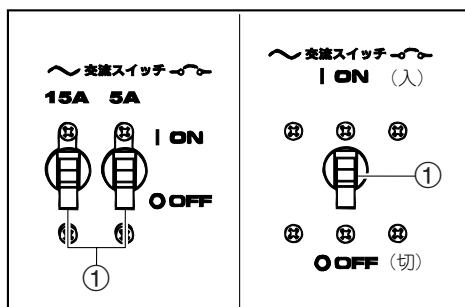
▲注意

エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。

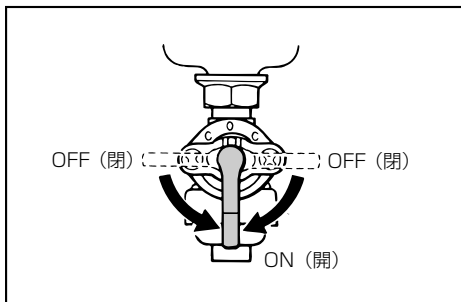
1. 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の量を点検します。



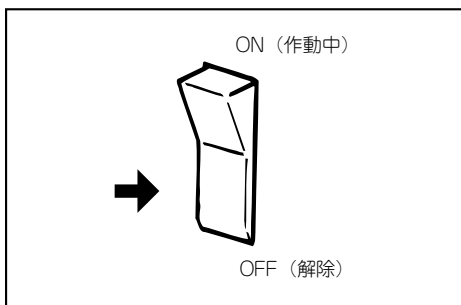
2. 交流スイッチ①をOFF（切）にします。



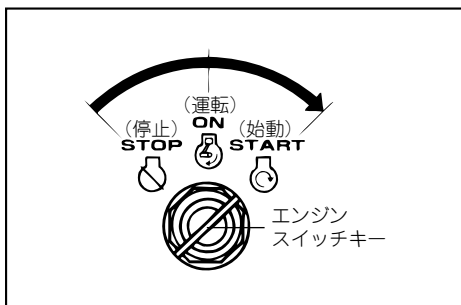
3. 燃料コックをON（開）にします。



4. エコノミーアイドルスイッチをOFF（解除）にします。



5. エンジンスイッチをSTART（始動）にしてエンジンを始動します。



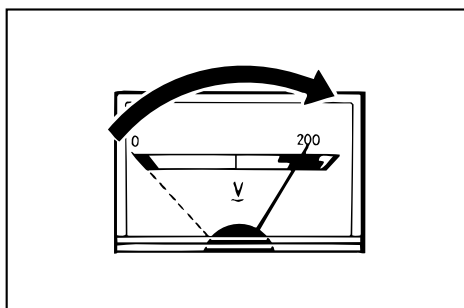
▲注意

- セルモータを連続して5秒以上回転させないでください。消費電力が多いため、バッテリー上がりの原因となります。
- 発電機を使用しないときは、エンジンスイッチをSTOP（停止）の位置にして、キーを抜いてください。

要 点

START（始動）の位置でエンジンがかかったら、エンジンスイッチから手を放してください。キーは自動的にON（運転）の位置に戻ります。

6. しばらく暖機運転します。
7. 電圧計（Vメータ）の針が200V付近を示しているか確認します。



- エンジンの始動（リコイル始動の場合）

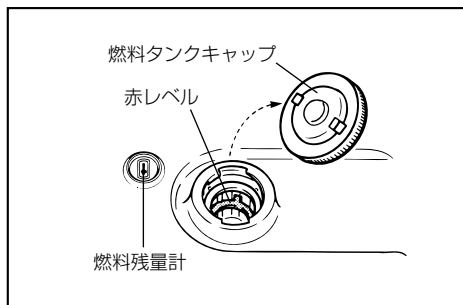
▲警告

換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しないでください。

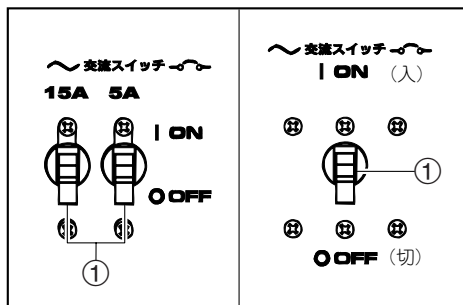
▲注意

エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。

1. 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の量を点検します。

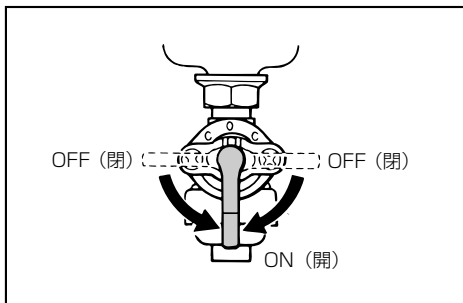


2. 交流スイッチ①をOFF（切）にします。

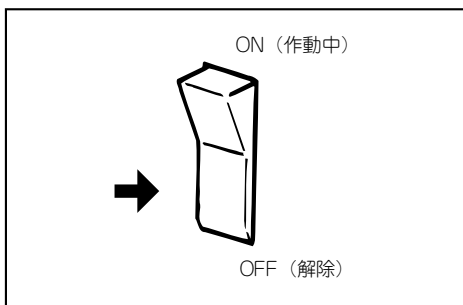


正しい運転操作（つづき）

3. 燃料コックをON（開）にします。

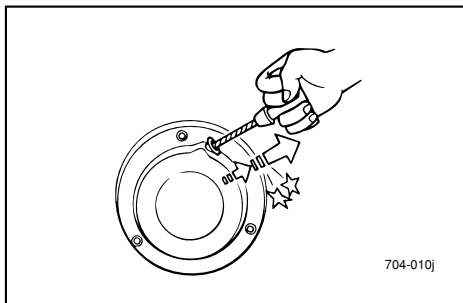


4. エコノミーアイドルスイッチをOFF（解除）にします。



5. エンジンスイッチをON（運転）にします。

6. リコイルスタータハンドルを軽く引き出し、リコイルスタータハンドルが重くなった状態から勢いよく引いてエンジンを始動します。

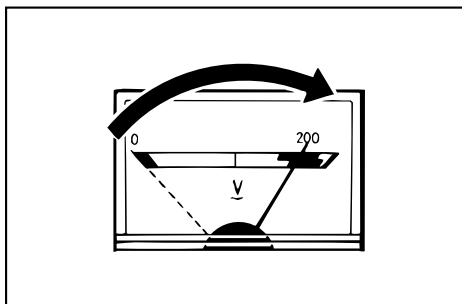


▲注意

- リコイルスタータハンドルを引くときは、発電機が倒れないように手でハンドルを押さえてください。
- リコイルスタータハンドルを戻すときは、ゆっくりと戻してください。

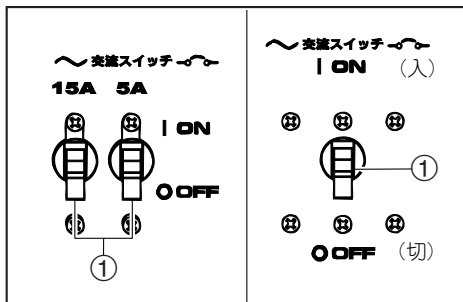
7. しばらく暖機運転します。

8. 電圧計（Vメータ）の針が200V付近を示しているか確認します。

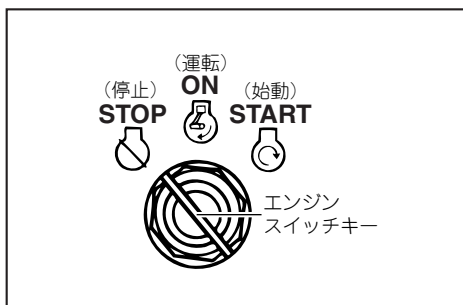


● エンジンの停止

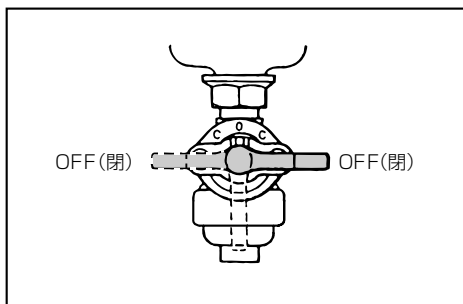
1. 電気器具のスイッチをOFF（切）にします。
2. 電気器具のプラグをコンセントから抜きます。
3. 交流スイッチ①をOFF（切）にします。



4. エンジンスイッチをSTOP（停止）にします。



5. 燃料コックをOFF（閉）にします。



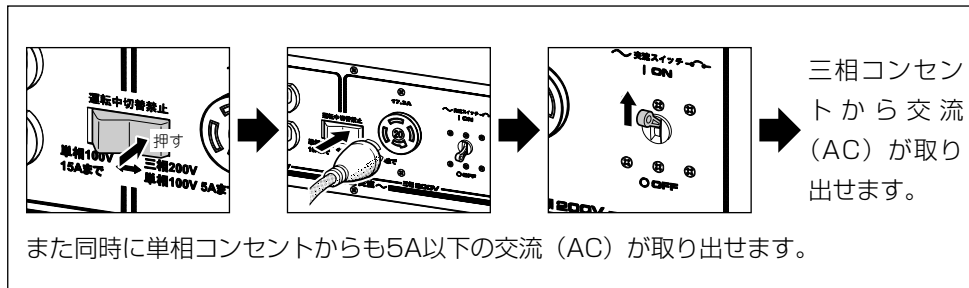
正しい運転操作（つづき）

● 単相・三相切替スイッチの使い方

単相・三相切替スイッチを切り替えることにより、単相または三相の交流（AC）を取り出すことができます。

単相・三相切替スイッチを使うときは、必ず全ての交流スイッチをOFFにしてください。

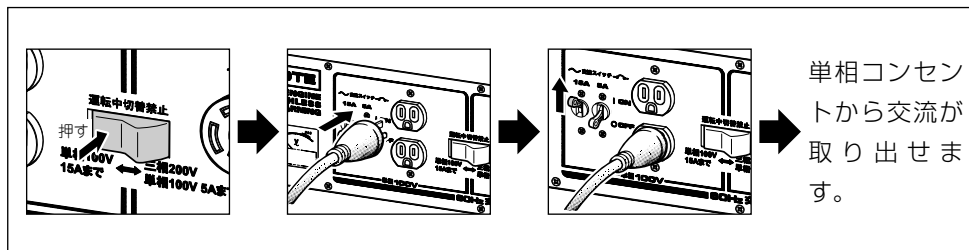
三相を使う場合



三相コンセントから交流（AC）が取り出せません。

また同時に単相コンセントからも5A以下の交流（AC）が取り出せます。

単相を使う場合



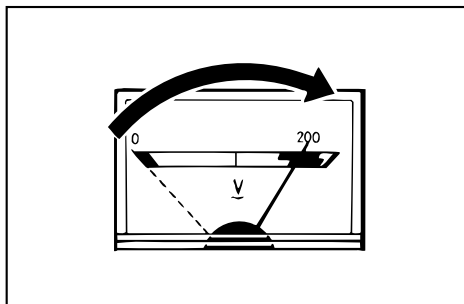
単相コンセントから交流が取り出せません。

● 交流電源の取り出ししかた

▲ 注 意

- 発電機は接続された電気器具の負荷の変化に合わせて電圧が変化しますので、電圧変化に敏感な電気器具は使用しないでください。
- 接続の可否が不明確な場合は電気器具会社にご相談ください。
- コンセントにほこり、汚れ、水などが付いている場合は、除去してから使用してください。

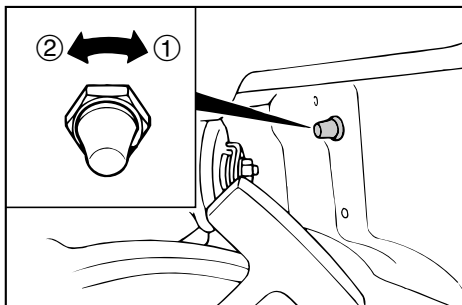
1. エンジンを始動します。
2. 電圧計の針が200Vの黒枠内にあるか確認します。



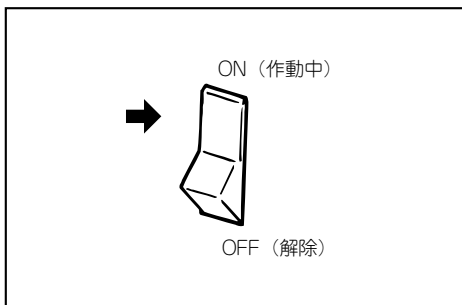
要 点

- 延長コードの使用などにより、交流（AC）三相200Vコンセントから取り出せる電気が200V以下になる場合があります。160Vから220Vまでの範囲で電圧調整ノブを調整してください。
- 延長コードの使用を止めた場合、電圧が上昇することがありますので、電圧調整ノブで再度調整してください。

- ①出力電圧が上昇します。
- ②出力電圧が下降します。



3. エコノミーアイドルスイッチをON（作動中）にします。

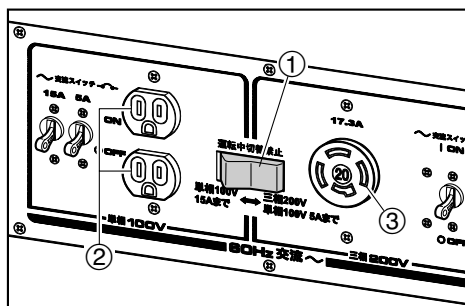


正しい運転操作（つづき）

4. 単相・三相切替スイッチ①をいただきたいコンセントに応じて切り替えます。
5. 電気器具のプラグを交流コンセント②もしくは③に差し込みます。

要 点

電気器具のスイッチがOFF（切）になっていることを必ず確認してから差し込んでください。



交流コンセント②には、単相100Vで合計消費電流15A以下の電気器具のプラグ（アース付3本端子・市販品）を差し込みます。

交流コンセント③には、三相200Vで消費電流14.4A以下（50Hz仕様）もしくは17.3A以下（60Hz仕様）の電気器具のプラグを差し込みます。

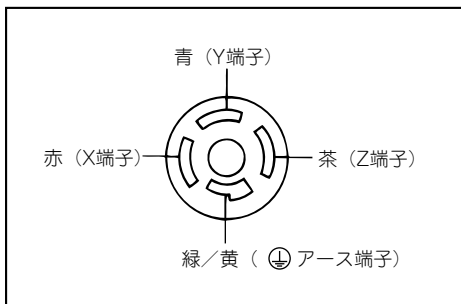
（参考）

三相200V用プラグ

- パナソニック電工（株）製
WF8420K
- （株）明工社製 MH2584

要 点

- 三相200Vの3線式はX.Y.Z端子と、4線式はX.Y.Z.Ⓧ（アース）端子と接続してください。
- 交流電源回路図はP53を参照してください。



6. 交流スイッチをON（入）にします。

● 交流電源の使用可能範囲

交流電源は電気器具ごとに、おおむね下表の取り出し可能範囲まで使用できます。使用する電気器具の消費電力（W）をお確かめの上、ご使用ください。

電気器具	取り出し可能範囲				備考
	50Hz		60Hz		
	単相	三相	単相	三相	
照明・電熱器	100V	200V	100V	200V	力率=1
ラジオ・テレビ	1,500W	5,000W	1,500W	6,000W	
ステレオなど	まで	まで	まで	まで	
電動工具類	100V	200V	100V	200V	力率= 0.8~0.95
	1,200W	4,000W (0.8計算)	1,200W	4,800W	
	程度まで	程度まで	程度まで	程度まで	
汎用モータ類	100V	200V	100V	200V	力率= 0.4~0.75
	750W	2,500W (0.5計算)	750W	3,000W	
	程度まで	程度まで	程度まで	程度まで	

▲ 注 意

- 電気器具の合計負荷が発電機の取り出し可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。
- 精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類は電圧に敏感で、携帯用発電機からの電圧より均一の電圧供給を必要とするものがあります。このような機器を使用するときには、販売店に相談してください。
- 精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ（原動機雑音）の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ（原動機雑音）に影響されないことを確認してください。
- 電気工具類・汎用モータ類の一部には、取り出し可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないものがあります。この場合は電気器具会社にご相談ください。

要 点

取り出し可能範囲を超えた場合、または電気器具に異常があった場合は交流スイッチがOFF（切）になりますので、電気器具の容量を再確認してください。

点検

お客様の安全と、発電機の故障と事故を未然に防ぐために実施してください。

▲ 警告

- エンジン運転中および停止直後は、エンジン本体、マフラ周辺のプロテクタなどが熱くなっています。手足で直接触れないでください。
ヤケドにご注意ください。
 - 排気ガスは、一酸化炭素など有害な成分を含んでいます。換気の悪い場所や、風通しの悪い場所でエンジンを始動しての点検はしないでください。
 - 重大な事故・故障の原因になりますので、始業点検・定期点検を必ず実施してください。
 - 異状が認められた場合は、ご使用のかたご自身またはヤマハ発電機販売店またはサービス店で必ず整備を行ってください。
-

● 始業点検

お客様が発電機をご使用する前に点検を行ってください。

点検箇所に異状がある場合は、ヤマハ発電機販売店またはサービス店で点検・整備をお受けください。

● 定期点検

お客様のお申し付けにより、ヤマハ発電機販売店またはサービス店が実施します。お客様の責任で必ず点検を受けてください。

始業点検

● 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の点検

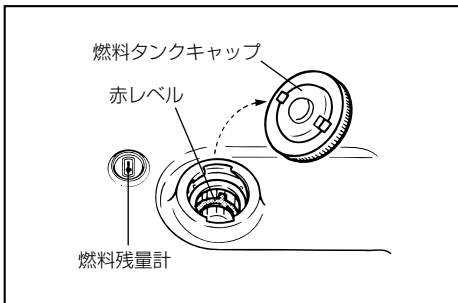
燃料タンクキャップを外して燃料（自動車用レギュラーガソリン）の残量を点検します。燃料タンク内の燃料の残量は、燃料残量計によっても確認できます。

燃料タンク容量

21.5L（赤レベルまで）

使用燃料

自動車用レギュラーガソリン



▲ 警告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発力があるので、次の事項を必ず守ってください。

- 給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。
- 給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意して行ってください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医者診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料タンクキャップは確実に締めてください。

▲ 注意

- 燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。またこぼれたときは、直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。
- 燃料は規定量以上（ストレナーの赤レベル以上）給油しないでください。

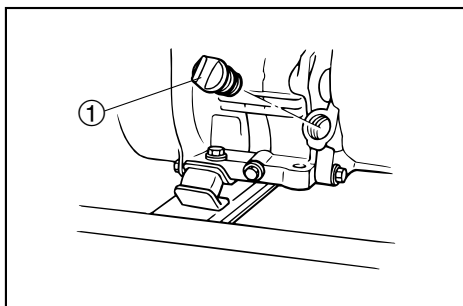
要 点

- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早めに補給してください。

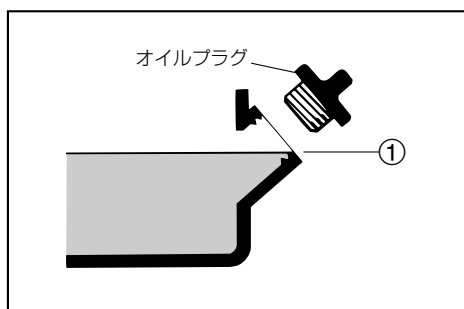
始業点検（つづき）

● エンジンオイルの点検

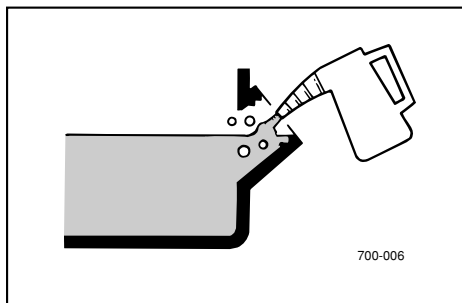
1. オイルプラグ①を取り外します。



2. エンジンオイルがオイル基準面（注入口の口元）①まであるか点検します。



3. エンジンオイルが基準面より少ない場合は、エンジンオイルを基準面まで給油します。



▲注意

エンジンオイルを基準面以上に給油しないでください。
エンジン不調になるおそれがあります。

要 点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態にして行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

4. オイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。

● その他の点検

「定期点検表」（P30）を参照してください。

定期点検表

対象部品	点検項目	始業 点検	6ヶ月毎又は 100時間運転毎	12ヶ月毎又は 300時間運転毎
エンジンオイル	オイル量の点検	○		
	交換		○ (*1)	
燃料	量、漏れ	○		
フューエルパイプ	亀裂、損傷の確認	○		
バッテリー	液の量	○		
スパークプラグ	点検、清掃		○	
エアクリーナ	点検、清掃		○ (*2)	
マフラワイヤネット	清掃、損傷の確認		○	
スパークアレスタ	清掃、損傷の確認		○	
燃料タンクストレーナ	清掃			○
フューエルストレーナ	清掃			○
ブリーザパイプ	亀裂、損傷の確認			○
シリンダーヘッド部	カーボンの除去			★
バルブクリアランス	点検			★
エンジン回転	調整			★
スタータロープ	損傷			★
本体各部	各部の緩み確認			★
前日の作業で異状が認められた箇所		○		

*1 ……初回は1ヶ月目または20時間運転時に実施してください。

*2 ……ほこりの多い場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに点検を行ってください。

★ ……この項目は整備に関する専門知識、工具、技術を必要としますので、ヤマハ発電機販売店またはサービス店へお申し付けください。

定期運転・定期交換

格納中であっても発電機を緊急で使用することが予測される場合は、ここに示す定期運転、定期交換を行って緊急時に備えてください。

● 定期運転

1ヶ月に1度定期的に発電機を運転（約10分）し、電気器具を接続して運転状態を点検してください。

● 定期交換

燃料（自動車用レギュラーガソリン）をいつも満タンの状態で保管する場合は、燃料の変質による始動不良を防止するため3ヶ月に1回は燃料タンク内の燃料を交換してください。

▲注意

- 本書での指示なき作業などを行うときにも、必ずエンジンを止めてください。
 - お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、ヤマハ発電機販売店またはサービス店へ作業を依頼してください。
-

交換部品は、必ず純正部品、または指定されたものを使ってください。

定期点検・整備ご相談窓口のご案内

ヤマハ商品の定期点検および整備に関しましては、ヤマハ発電機販売店またはサービス店にご遠慮なくご用命ください。

【ご注意】

1. 整備はヤマハ発電機販売店またはサービス店へのお持込みを原則とします。
2. 現地整備の場合には別途出張料金を申し受けます。
3. 土曜、日曜、祝日、年末年始、その他夏期など休業させていただく場合があります。
4. 区画整理、電話局の新增設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのであらかじめご了承ください。

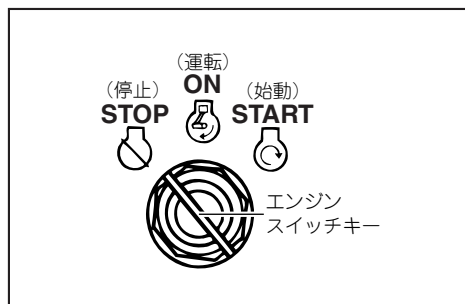
点検・調整

● エンジンオイルの交換

▲ 警告

油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、ヤマハ発電機販売店またはサービス店へご相談ください。

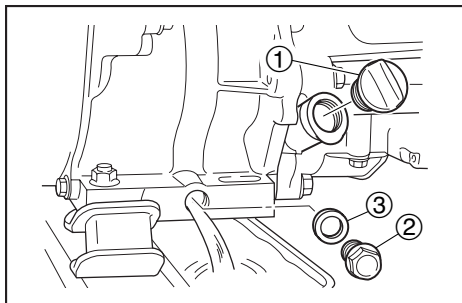
1. エンジンを始動し、2～3分暖機運転します。
2. エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。



▲ 警告

エンジン停止直後はエンジンオイルが熱くなっていますので、すぐに排出しないでください。

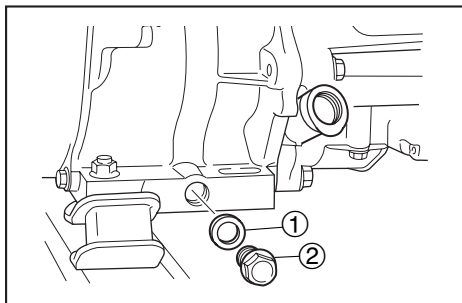
3. 排出するエンジンオイルを受け取る容器をエンジンの下に用意します。
4. オイルプラグ①、エンジンオイルドレンボルト②、ガスケット③を取り外してエンジンオイルを抜きます。



要 点

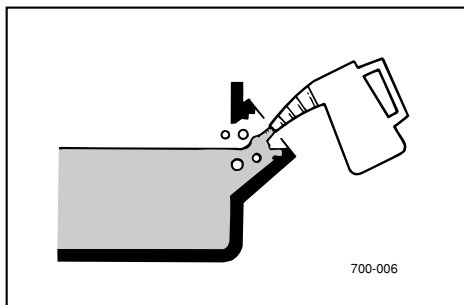
初回は20時間目、その後は100時間毎に交換してください。

5. 新しいガスケット①とエンジンオイルドレンボルト②を取り付け、エンジンオイルドレンボルトを規定のトルクで締め付けます。

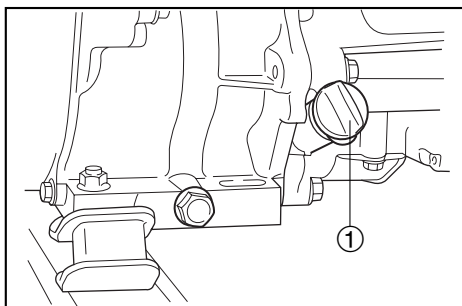


エンジンオイルドレンボルト
規定トルク
27N・m

6. 新しいエンジンオイルを規定量（注入口の口元まで）給油します。



7. オイルプラグ①を取り付け、確実に締め付けます。



推奨オイル：

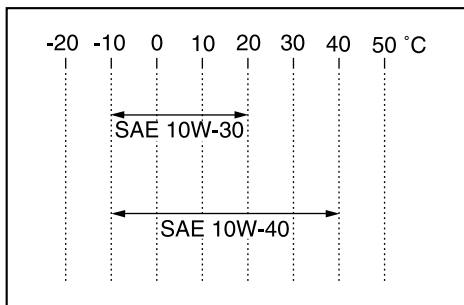
ヤマルーブスタンダードプラスまたは
4ストロークガソリンエンジンオイル
SAE 10W-30もしくは10W-40

グレード：

API分類SE級以上

エンジンオイル規定量：

1.1L



要 点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態にして行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

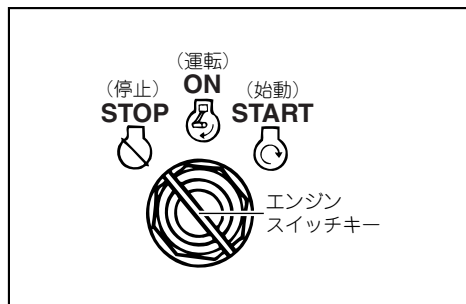
点検・調整（つづき）

● スパークプラグの点検と清掃

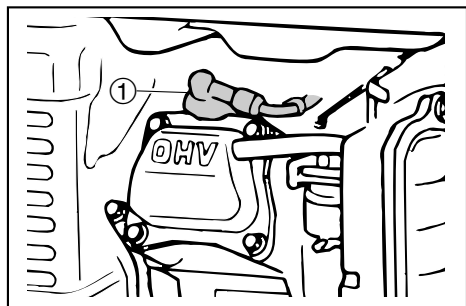
スパークプラグは、点検が簡単な重要部品です。

スパークプラグは徐々に劣化しますので、定期的に外して点検を行う必要があります。

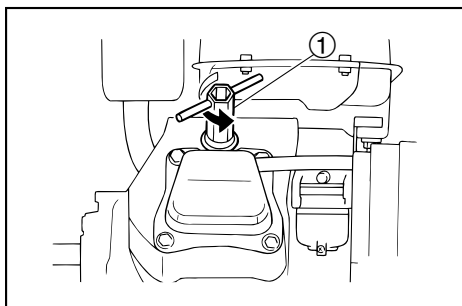
1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。



2. スパークプラグキャップ①を取り外します。



3. スパークプラグレンチ①を使って、スパークプラグを外します。



▲ 警告

- スパークプラグの脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。碍子が損傷すると、電気がもれて火災などを誘発するおそれがあります。
- エンジン停止直後は、スパークプラグやエンジン本体が熱くなっていますので、ヤケドに注意してください。

4. スパークプラグの焼け具合を点検します。
通常はキツネ色に焼けますが、黒くくすぶっていたり白く焼けていたときはエアクリーナを点検します。
5. 電極付近の汚れ（カーボン）を落とします。

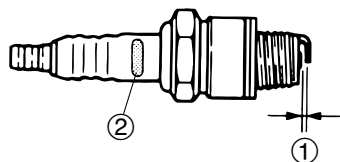
6. スパークプラグギャップとスパークプラグ認識番号を点検します。

スパークプラグギャップ

0.7~0.8mm

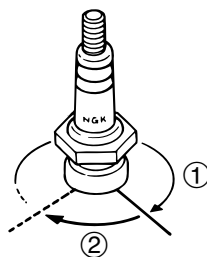
スパークプラグ認識番号

NGK BPR4ES



- ① スパークプラグギャップ
- ② スパークプラグ認識番号

7. スパークプラグを締め付けます。



スパークプラグ

規定トルク

20N・m

要 点

新しいスパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できないときは、指でいっぱい締め込んだ後①、プラグレンチを使って1/4~1/2回転②更に締め込んでください。

できるだけ早い時期に、トルクレンチを使って規定トルクで締めてください。

8. スパークプラグキャップを取り付けます。

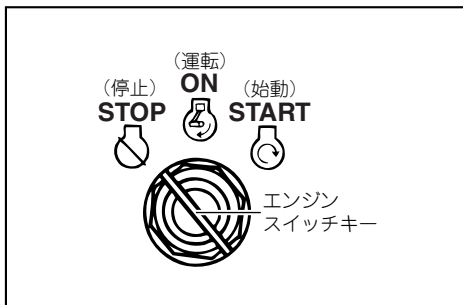
点検・調整（つづき）

● エアクリーナエレメントの清掃

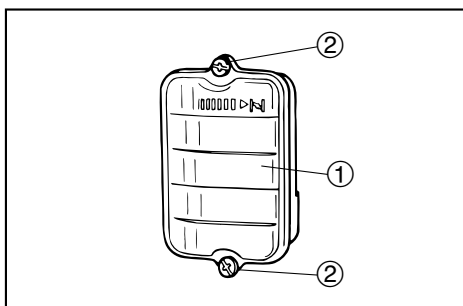
要 点

発電機をほこりの多い場所で使用した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

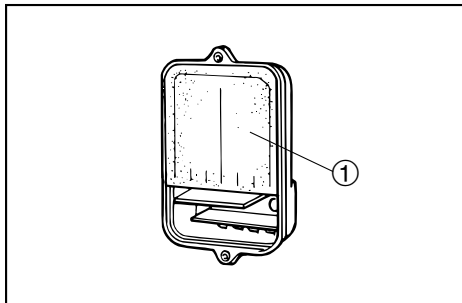
1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。



2. エアクリーナカバー①を固定しているスクリュー②を取り外します。



3. エアクリーナカバーを取り外します。
4. エアクリーナエレメント①を取り外します。

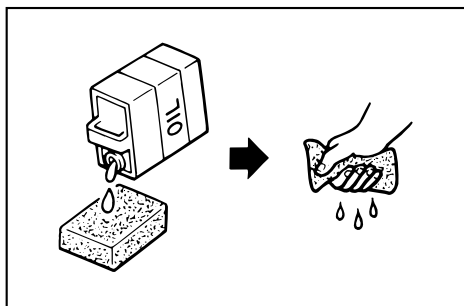


5. エレメントをきれいな白灯油で洗浄します。

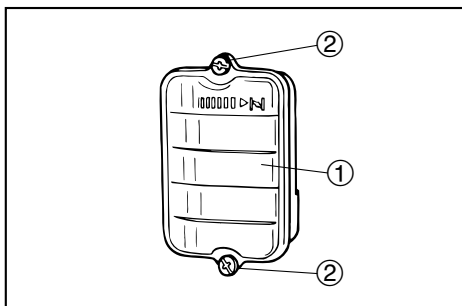
▲ 警 告

- タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、ヤマハ発電機販売店またはサービス店へご相談ください。

6. エレメントをエンジンオイルなどにひたし、その後余分なオイルを取り除きます。



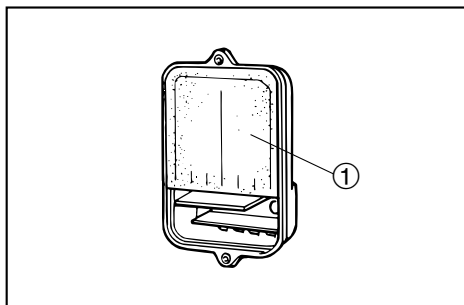
8. エアクリーナカバー①を取り付け、スクリュ②を締め付けます。



▲注意

エレメントは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。

7. エアクリーナエレメント①をエアクリーナ本体にはめ込みます。



▲注意

エレメントを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダの摩耗の原因になります。

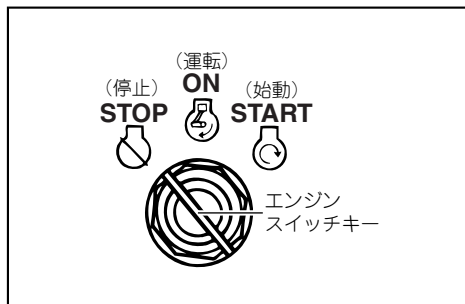
点検・調整（つづき）

● マフラワイヤネットの清掃

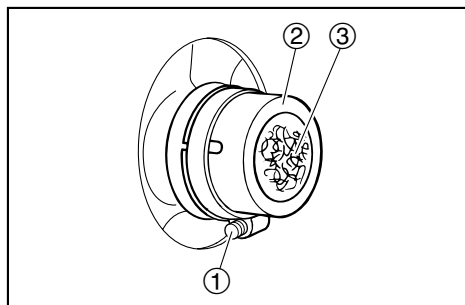
▲警告

エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどが熱くなっていますので、ヤケドに注意してください。点検や整備は、十分にエンジン本体やマフラなどが冷えてから行ってください。

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。



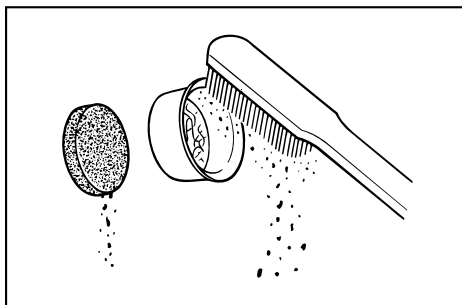
2. ボルト①をゆるめて、マフラキャップ②、マフラワイヤネット③、ワッシャーを取り外します。



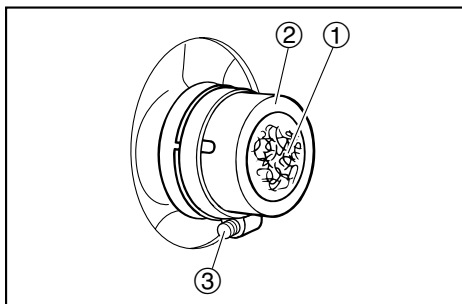
3. ワイヤブラシを使用して、マフラキャップ、マフラワイヤネットの汚れを取り除きます。

▲注意

ワイヤブラシを使用して、マフラキャップ、マフラワイヤネットを清掃するときは、傷を付けないように注意してください。



4. ワッシャー、マフラワイヤネット①、マフラキャップ②を取り付けて、ボルト③を締め付けます。

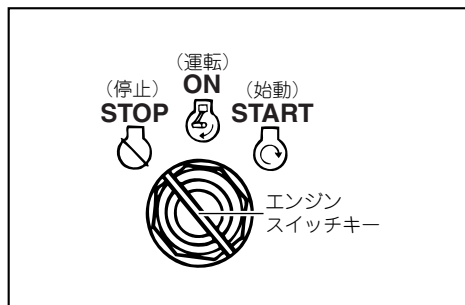


● 燃料タンクストレーナの清掃

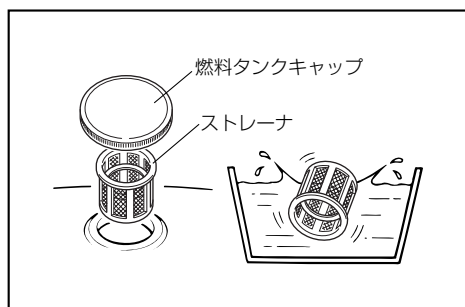
要 点

ストレーナが短期間に汚れる場合は、燃料タンク内に汚れが溜まっていることがあります。

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。



2. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外します。



3. ガソリンを使ってストレーナを洗浄します。

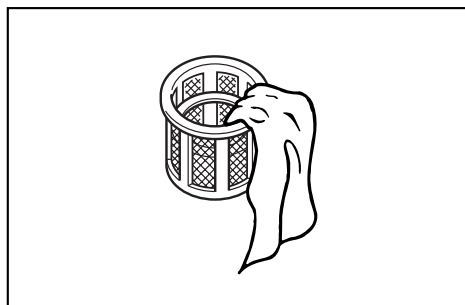
▲ 警 告

タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。

要 点

ストレーナが破損している場合は新品と交換してください。

4. ストレーナを拭いて、燃料タンクに挿入します。



5. 燃料タンクキャップを取り付けます。

▲ 警 告

燃料タンクキャップはしっかりと締め付けてください。

点検・調整（つづき）

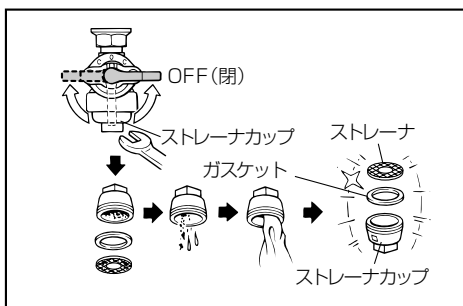
● フューエルストレーナの清掃

要 点

ストレーナが短期間に汚れる場合は、燃料タンク内に汚れが溜まっていることがあります。

ヤマハ発電機販売店またはサービス店にご相談ください。

1. 燃料コックをOFF（閉）にします。



2. ストレーナカップを取り外します。

要 点

ストレーナカップにゴミがある場合は定期点検時期より早めに清掃してください。

3. ガスケット、ストレーナを取り外します。
4. ストレーナカップ、ストレーナをガソリンで洗浄します。

▲ 警 告

タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。

5. ガスケットを点検します。

要 点

ガスケットが破損している場合は新品と交換します。

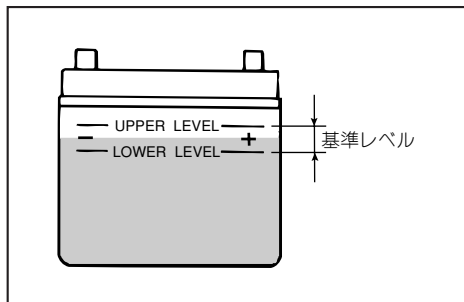
6. ストレーナ、ガスケットおよびストレーナカップを取り付けます。
7. 取り付け後は燃料漏れがないかを確認します。

▲ 警 告

取り付けが悪いと燃料漏れをおこし、火災や爆発の原因になるおそれがあります。

● バッテリー液の点検

1. バッテリーの液面が基準レベル内にあるか確認します。
2. 液面が基準レベルより下がっている場合は蒸留水を補給します。



3. キャップの排気孔につまりがいないか確認します。

▲ 警告

- バッテリーの取り扱いにご注意ください。
- バッテリーは引火性ガスを発生しますので、取り扱いを誤ると爆発や大けがをすることがあります。(特に保守・点検・充電・ブースターケーブル使用時には、危険のないように取り扱ってください。)
 - 火気厳禁……ショートやスパーク、たばこなどの火気を近づけないでください。<爆発>
 - 通風のよい所で……閉めきった場所での使用や充電は危険です。<爆発>
 - バッテリー液は希硫酸……皮膚・目・衣服につくと危険です。<火傷・失明など>
- 規定以外のバッテリーは使用しないでください。
- 応急手当
 - 万一、バッテリー液が皮膚・衣服につい

たときは多量の水で洗い流してください。

- 目に入ったときはただちに多量の水で15分以上洗い医師の治療を受けてください。

要 点

定期的に比重を測定し、バッテリーの状態を確認してください。

比重	1.28
----	------

故障診断

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは、取り扱いの不慣れや不十分な点検に起因しています。故障が生じたときは、ヤマハ発電機販売店またはサービス店にご相談ください。

下記には最も考えられる故障を選び、その想定される原因を列記しました。故障診断が不安なときは、できるだけそのままの状態ヤマハ発電機販売店またはサービス店に連絡し、専門技術者にご相談ください。

● エンジンが始動しない

1. 燃料系統（燃焼室に燃料が供給されていない）

燃料タンクが空になっている……………燃料（自動車用レギュラーガソリン）を補給する。

燃料パイプが目詰まりしている……………燃料パイプを清掃する。
もしくは、ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。

燃料コックに異物が混入している……………燃料コックを清掃する。
もしくは、ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。

キャブレタが目詰まりしている……………キャブレタを清掃する。
もしくは、ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。

2. 電気系統（火花不足）

スパークプラグが汚れている……………スパークプラグを乾燥させて清掃する。

スパークプラグにカーボンが付着している…カーボンを除去する。

点火系統が不良……………ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。

セルモータが回転しにくい……………バッテリーを充電する。もしくは、ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。

3. 圧縮系統（圧縮不足、漏れ）……………ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。

4. 潤滑系統（オイル不足）

リコイルスタータを引くと

オイル警告ランプが点灯する……………エンジンオイルを規定量（注入口の口元）まで補給する。

● 電気が出ない

交流スイッチがOFF（切）になっている……………交流スイッチをON（入）にする。

運搬

発電機を自動車・トラックなどの車両で運搬する場合は、次の項目を守ってください。

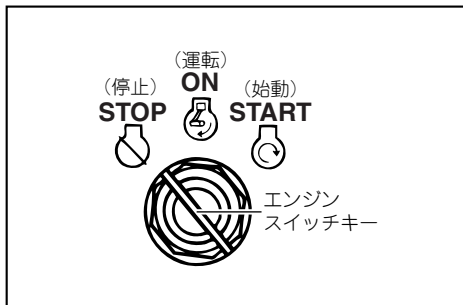
▲警告

- 振動、衝撃などで燃料タンクの燃料（自動車用レギュラーガソリン）がこぼれるおそれがありますので、燃料タンクに燃料を給油したまま運搬しないでください。
- 燃料が気化して引火するおそれがありますので、発電機を車内やトランクなどに積載したまま、長い時間直射日光の当たる場所に放置しないでください。
- 火災のおそれがありますので、予備の燃料は消防法に適合した鉄製の携帯タンクに保管してください。
- 火災のおそれあり、車両に積載したまま使用しないでください。

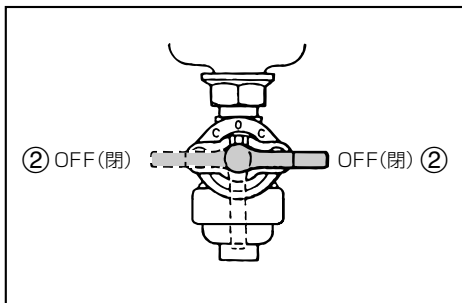
▲注意

発電機の上に重いものを置かないでください。

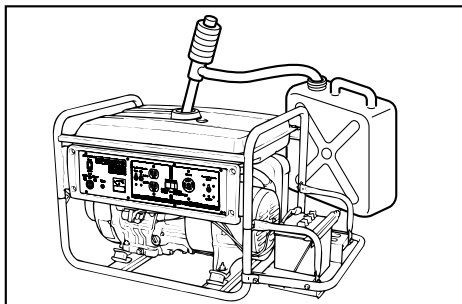
1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にします。



2. 燃料コックをOFF（閉）にします。



3. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販のポンプを使用して燃料（自動車用レギュラーガソリン）を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。



4. ストレーナおよび燃料タンクキャップを取り付けます。

▲警告

- 燃料タンクキャップは確実に締めてください。
- こぼれた燃料は直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。

5. 車両に積載します。

運搬（つづき）

6. 発電機をロープなどで確実に固定します。

要 点

発電機が移動、転倒、落下、破損などしないような位置に積載してください。

保管・格納

● 保管

使用後、または定期運転後次回の使用が3ヶ月以降になる場合は、1～11の作業を行って保管し、次に使用するとき備えてください。

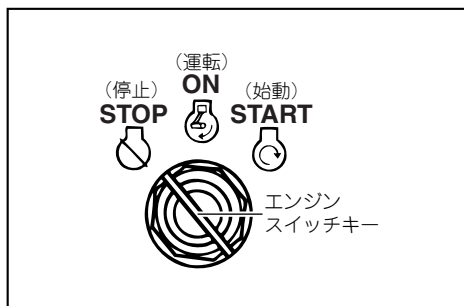
▲ 注意

燃料（自動車用レギュラーガソリン）が自然劣化してエンジンの始動が困難になる場合がありますので、燃料は抜いてください。

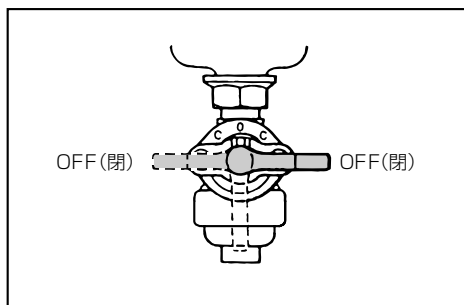
要 点

排出する燃料を受け取る容器を用意してください。

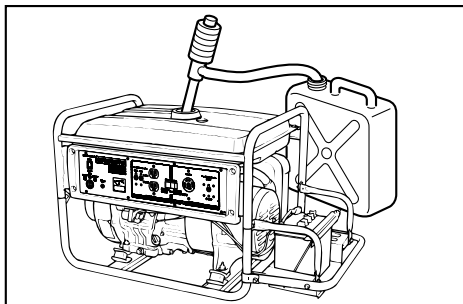
1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてエンジンを停止します。



2. 燃料コックをOFF（閉）にします。



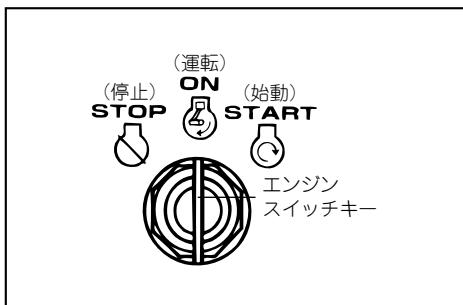
3. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販のポンプを使用して燃料（自動車用レギュラーガソリン）を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。



▲ 警告

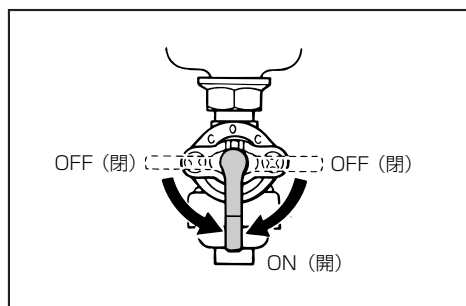
- 燃料タンクキャップは確実に締めてください。
- こぼれた燃料は直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。

4. エンジンスイッチをON（運転）にします。



保管・格納（つづき）

5. 燃料コックをOFF（閉）からON（開）にします。

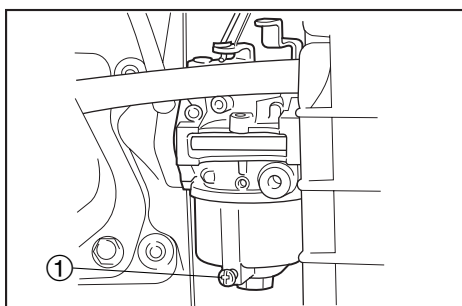


6. エンジンを始動します。
数分後にエンジンは「ガス欠状態」で停止します。

要 点

- 電気器具は接続しないでください。（無負荷運転）
- 燃料タンク内の燃料残量によって「ガス欠状態」になるまでの時間は変わります。

7. キャブレタのドレンスクリュー①をドライバー⊕でゆるめて燃料を抜きます。



▲ 警 告

こぼれた燃料は直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。

要 点

キャブレタ内のガソリンを抜かずに長期間放置すると、ガソリンが変質しエンジンがかからなくなる場合があります。

8. キャブレタのドレンスクリューをドライバー⊕で締め付けます。
9. エンジンスイッチをSTOP（停止）、燃料コックをOFF（閉）にします。

10.ゆるみがあれば、各ボルト・ナットを増し締めします。



11.室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。



▲注意

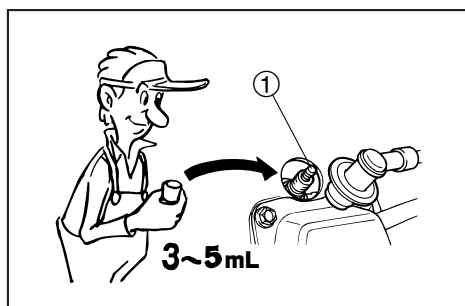
火災のおそれがありますので、発電機にカバーを掛ける場合は、エンジン部、マフラ部が十分に冷えてから行ってください。

保管・格納（つづき）

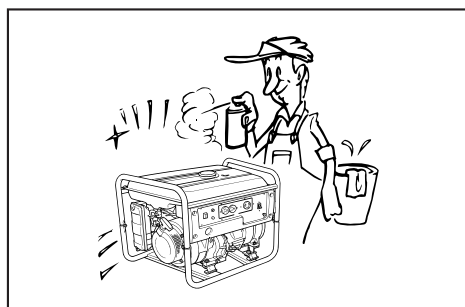
● 格納

長期間にわたって使用しない場合は、次のことを行って格納し、次に使用するとき備えてください。

1. 保管項目の1～9の作業を行います。
2. スパークプラグ①を外し、プラグ孔よりエンジンオイルを3～5mL給油します。



3. リコイルスタータハンドルを2～3回引いた後、スパークプラグを取り付けます。
4. リコイルスタータハンドルを引き、重くなった状態（圧縮状態）にします。
5. 保管項目の10の作業を行います。
6. 各部をきれいに清掃して防錆処理をします。



7. 発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。



仕様諸元

名 称		EF6000TE		
形式		2極回転界磁形3相交流発電機		
電圧調整方式		A.V.R式		
励磁方式		自己励磁式		
力率		1.0		
発 電 機	交流	定格周波数	50Hz 60Hz	
		定格出力 (単相100V)	1.5kVA 1.5kVA	
		定格電圧	100V	
		定格電流 (単相100V)	15A 15A	
		定格出力 (三相200V)	5.0kVA 6.0kVA	
		定格電圧	200V	
		定格電流 (三相200V)	14.4A 17.3A	
装 備	駆動方式		エンジン直結	
	交流コンセント		3個 (単相2個、三相1個)	
	交流過電流保護装置		N.F.B	
	直流コンセント		無	
	直流過電流保護装置		無	
エ ン ジ ン	エンジン種類		空冷4ストロークガソリンエンジン	
	調速機形式		遠心重錘式	
	冷却方式		強制空冷式	
	点火方式		TCI点火	
	スパークプラグ		NGK・BPR4ES	
	プラグギャップ		0.7~0.8mm	
	エアクリーナ方式		半湿式 (ウレタンフォーム)	
	総排気量		357mℓ (357cc)	
	使用燃料		無鉛ガソリン (自動車用レギュラーガソリン)	
	潤滑方式		強制飛沫式	
	使用潤滑油		API分類SE級以上エンジンオイル (SAE 10W-30または10W-40)	
使用潤滑油容量		1,100mℓ		
始動方式		リコイル式+セルモータ式		
燃料タンク容量 (赤レベル)		21.5ℓ		
定格連続運転時間 (赤レベル)		約8.0時間	約6.3時間	
乾燥重量		90kg		
全長×全幅×全高		894×520×527mm		
騒音レベル*1	96.5dB/LWA		101.0dB/LWA	
	71.5dB(A)/7m		74.0dB(A)/7m	
バッテリーメーカー/型式		GS/40B19R		

•この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。

*1：仕様諸元表に表示した騒音レベル、LWAはISO3744に準ずる試験環境での音響パワーレベル、dB(A)/7mは機側7m四方向の算術平均値です。異なる環境下での騒音はこの数値と変わる場合があります。

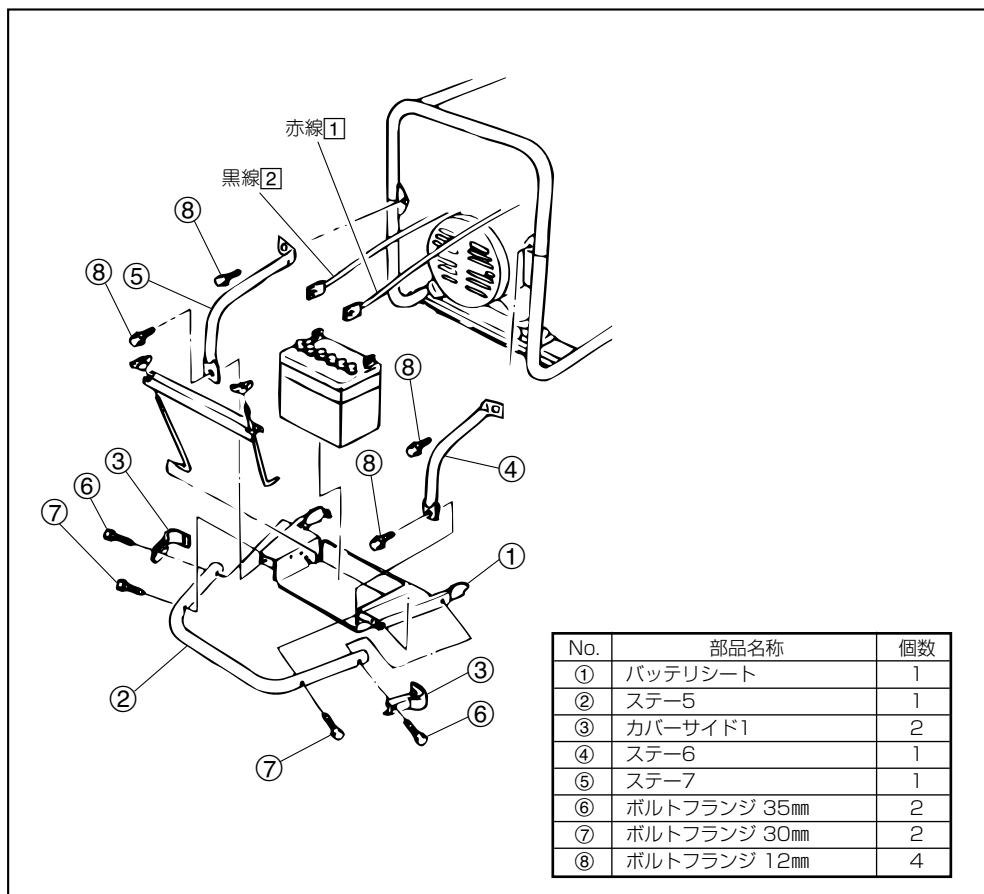
バッテリー・バッテリートレイの取り付け要領

● バッテリー・バッテリートレイの取り付け要領

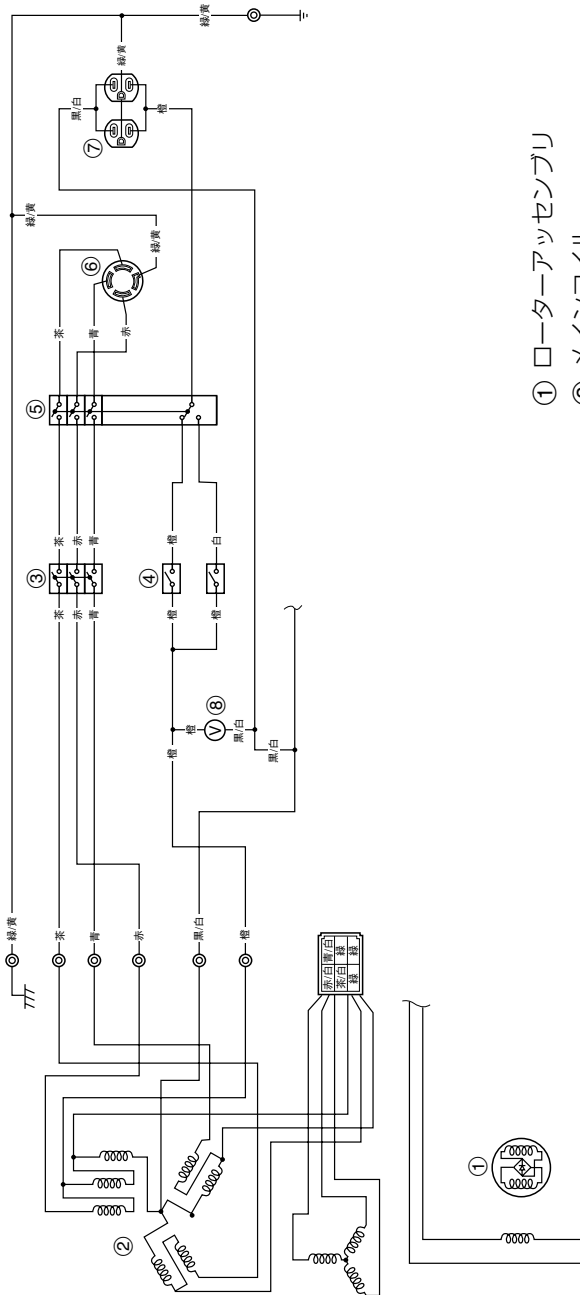
▲ 警告

規定以外のバッテリーは使用しないでください。

1. バッテリートレイを発電機本体に取り付けます。
(①～⑧の部品を取り付けます。)
2. バッテリーをバッテリートレイに載せます。
3. 赤線①をバッテリー⊕端子に接続します。
4. 黒線②をバッテリー⊖端子に接続します。



交流電源回路図



- ① ローターアセンブリ
- ② メインコイル
- ③ 交流スイッチ (三相200V)
- ④ 交流スイッチ (単相100V)
- ⑤ 単相・三相切替スイッチ
- ⑥ 交流コンセント (三相200V)
- ⑦ 交流コンセント (単相100V)
- ⑧ 電圧計

索引

記号

- ⚠ 警告3
- ⚠ 警告シンボルマーク表紙裏(表2)
- ⚠ 警告ラベル5
- ⚠ 注意4
- ⚠ 注意シンボルマーク表紙裏(表2)
- ⚠ 注意ラベル5

あ行

- アース端子7, 14
- 安全にお使いいただくために
- お守りください3
- 運搬44
- エアクリーナ7
- エアクリーナエレメント
- (エアクリーナ内)7
- エアクリーナエレメントの清掃37
- エコノミーアイドルスイッチ11
- エンジンオイルドレンボルト7
- エンジンオイルの給油17
- エンジンオイルの交換33
- エンジンオイルの点検29
- エンジンが始動しない43
- エンジンスイッチ7, 9
- エンジンの始動
- (手動スタート)20
- エンジンの始動
- (電動スタート)19
- エンジンの停止22
- オイル警告ランプ7
- オイル警告ランプ (赤色)10
- オイル警告装置9
- オイル警告装置 (エンジン内)7
- オイルプラグ (オイル注入口)7
- お客様ご相談窓口のご案内2
- おねがい表紙裏(表2)

か行

- 格納49
- 各部の取り扱い9
- 各部の名称7
- 環境への配慮4
- キャブレタ7
- 携帯工具15
- 交流コンセント13
- 交流スイッチ7, 10
- 交流電源回路図52
- 交流電源の使用可能範囲26
- 交流電源の取り出しかた24
- 故障診断43

さ行

- 始業点検27, 28
- 重要ラベル5
- 仕様諸元50
- ストレーナカップ7
- スパークプラグ7
- スパークプラグキャップ7
- スパークプラグの点検と清掃35
- スパークプラグレンチ7
- その他の点検29
- その他ラベル6

た行

- 正しい運転操作19
- 単相・三相切替スイッチ12
- 単相・三相切替スイッチの
- 使い方23
- 定期運転31
- 定期運転・定期交換31
- 定期交換31
- 定期点検27
- 定期点検・整備ご相談窓口の
- ご案内32
- 定期点検表30
- 点検27
- 点検・調整33
- 電圧計 (Vメータ)7, 11
- 電圧調整ノブ13
- 電気が出ない43
- ドレンスクリュ7

な行

- 燃料 (自動車用レギュラー
- ガソリン) の給油16
- 燃料 (自動車用レギュラー
- ガソリン) の点検28
- 燃料コック7, 12
- 燃料残量計7
- 燃料タンク7
- 燃料タンクキャップ7
- 燃料タンクストレーナの清掃40

は行

- はじめてお使いになる前に16
- バッテリー液の点検42
- バッテリー・バッテリートレイの
- 取り付け要領51
- ハンドル7
- フューエルストレーナの清掃41
- 保管46

保管・格納	46
本体識別番号	1

ま行

マフラ	7
マフラワイヤネットの清掃	39

や行

要点シンボルマーク	表紙裏(表2)
-----------	---------

ら行

リコイルスタータハンドル	7, 14
--------------	-------



ヤマハモーターパワープロダクツ株式会社
〒436-0084 静岡県掛川市逆川1200-1